

消防団

愛するまちを守る

自分たちで自分たちの
まちを守る消防団

真庭市には大勢の消防団員がいます。もしかしたら、これを読んでいるあなたも消防団員かもしれませんね。

普段は、それぞれ違う仕事をしてしたり、違う活動をしていたりする多種多様な団員ですが、どのようにまちを守っているのでしょうか。消防団の活動を、さまざまに人たちに話を聞きました。

平成29年11月28日 美甘消防団出前講座

Maniwa 02



団長の話

消防をもって「和」をつくる

真庭市消防団

団長 藤元 敬さん(糸津)

昭和57年入団。湯原方面隊長などを経て平成25年から団長に。美作地区消防連絡協議会副会長や岡山県消防協会の理事なども務める。自営業。

身近なところで 地域を守る消防団

消防団員は、非常勤特別職の地方公務員という身分です。こう言うと、非常に固い感じになってしまいます。実は、皆さんすぐ身近に住んでいる人たちで構成されているのが消防団です。

消防活動のほか、地震や風水害時の救助活動、警戒パトロールなどが主な任務ですが、平常時には非常呼集訓練や救命講習など、災害に備えて訓練も行います。また、防火パレードや、チラシの配布など火災予防啓発の広報活動

も行っています。その他にも町村合併前から続いている方面隊独自の活動もあります。

団員数は県下2番目

県下には27の消防団があり、その中で最も団員数が多いのが岡山市で、約4500人。それに次いで2番目が真庭市で、2616人。真庭市民の約17人に1人が消防団員ということになります。

真庭市は県下でも最も面積が広大で、828平方キロメートルもあります。そのため、一人でも多くの人が団員として、地域を守っていくことが必要だと感じています。

「和」を生む消防団活動



消防操法に臨む消防団員



保育園の避難訓練にも参加

農業、自営業、主婦、公務員など職業だけ見ても多種多様な人たちが真庭市消防団員として活動しています。そのほとんどは、近所の人や先輩から誘われて入団します。

特に、要員や指導者のほかサポートをする団員たちが協力して大会に臨む消防操法では、厳しさや難しさ、喜びや悔しさを共有することがであります。この「伝統」は先輩から後輩へと受け継がれてきた「和」でもあります。

消防団という組織は、人と人の「和」を生み、その「和」によって成り立っていると言えます。

仕事や家庭のこともあるのでやるべきことが多い毎日ではあります。団の皆さんと一緒に頑張っています。送り出してくれる家族にも感謝。



久世方面隊 第2分団
花房 裕さん(久世)
会社員 平成17年入団

団員たちの声



久世方面隊 第5分団
二宗 健治さん(鍋屋)
会社員 平成12年入団

災害時などに活動していると、地域の人から「ありがとうございます。頑張って良かったと感じます。



湯原方面隊 担架教練

- 2月23日 北房方面隊 防火パレード
- 3月4日 落合方面隊 防火パレード
- 3月4日 勝山方面隊 非常呼集訓練
- 3月4日 勝山方面隊 勝山方面隊訓練会
- 3月11日 初出式・各方面隊伝達式
- 3月11日 湯原方面隊 新入団員訓練
- 3月11日 湯原方面隊 担架教練
- 4月20日 岡山県消防操法訓練大会
- 4月21日 美甘方面隊 山焼き復活プロジェクトに壮行式 第2分団が参加
- 5月20日 岡山県消防操法訓練大会 模擬火災訓練
- 6月2日・3日・7日 勝山方面隊 放水訓練
- 6月10日～7月1日 蒜山方面隊 放水訓練
- 6月14日 久世方面隊 豪雨災害 特別警報が出動、多くが発表され、多く
- 7月5日～8日

消防団この1年間

消防団の活動にはどのようなものがあるのでしょうか。今年1年間の消防団活動の一部を紹介します。また、消防団と連携し活動している人たちに話を聞きました。

1 / 1



類焼予防のため放水



美甘の山焼き復活プロジェクト



美甘地域づくり委員会
委員長 澤本 基兄さん

人も減っていく中、大変だと思います。私はラッパ隊にも加入していく、式典のための吹鳴の練習をしています。皆さんも一緒に活動しましょう。

私は、消防団の皆さんにはこれからも活動を続けてほしいです。快く引き受けていただき、感謝しています。

美甘地域では、美甘ドーム裏手の旧放牧地を活用した「山焼き復活プロジェクト」を昨年から行っています。このプロジェクトでは、年に一度山焼きをして、その後に生えてくるワラビなどの山菜を使った「山菜取り体験」や「山菜料理」を観光に生かす取り組みを進めています。

女性団員も地域の皆さんへの火災予防啓発活動を頑張っています。私はラッパ隊にも加入していく、式典のための吹鳴の練習をしています。皆さんも一緒に活動しましょう。



夫も活動に協力的で、操法やラッパ隊などのさまざまな経験をさせていただいている。今は出産前ということもあり、活動を休んでいますが、ひと段落したらまた活動頑張ります。



落合方面隊
芦田 恵美子さん(日名)
自営業 平成26年入団

団員たちの声



落合方面隊 一斉放水



蒜山方面隊 方面隊操法訓練大会



岡山県操法訓練大会壮行式

有事の出動件数(11月現在)
火災29件、その他3件

12/31

- 8月8日 湯原方面隊 はんざき祭り警備
- 8月26日 落合方面隊 夏季訓練
- 8月26日 美甘方面隊 夏季訓練
- 10月4日 蒜山方面隊 消防操法訓練大会
- 11月2日 北房方面隊 防火パレード
- 11月4日 久世方面隊 非常呼集訓練
- 11月4日 落合方面隊 秋季訓練
- 11月4日 11日 落合方面隊 防火パレード
- 11月10日 勝山方面隊 防火パレード
- 11月11日 湯原方面隊 防火パレード・非常呼集訓練
- 11月11日 北房方面隊 非常呼集訓練
- 11月29日 美甘方面隊 訓練や放水訓練
- 12月29日～30日 年末夜警

ここで紹介した以外にも、会議や訓練、啓発活動や花火警戒など多くの行事があります。

真庭消防署 本署
志田 勝彦 署長

消防団は、地域に密着しており、市民の安心・安全を守るために欠かせないものです。今後、消防団との協力をより一層深め、あらゆる災害に対応したいと思っています。

有事の際には消防団のような組織の必要性を感じますし、入団することで、自分自身の防災意識も高まります。また、地域の人とのつながりを持つ良い機会にもなっています。

蒜山方面隊 第1分団
植木 俊博さん(蒜山本茅部)
公務員 平成27年入団

消防団と消防署 連携して活動

署長の話

消防活動での消防団

消防団と消防署は、連携して消防活動を行っています。

消防署から遠い現場では、被害を最小限に食い止めるため、地元消防団が、いち早く現場に駆けつけ、消防活動を始めます。

他にも火災現場での消防団の活動は、現場周辺の交通整理、延焼防止のため周辺の監視、危険物の移動、市民の安全確保、防火用水への水の補給などがあります。夜間に發

生した火災では、鎮火後も現場に残り警戒が必要で、朝まで監視が続けます。

火災以外にも 多岐に渡る活動

消防団の活動は多岐に渡り、火災以外にも、行方不明者の捜索や、自然災害時の災害防御などがあります。特に夏から秋に掛けての台風シーズンには、昼夜を問わず市民の安心・安全を守るために活動しています。

消防団は、地域に密着しており、市民の安心・安全を守るために欠かせないものです。今後、消防団との協力をより一層深め、あらゆる災害に対応したいと思っています。

勝山方面隊 第3分団
福島 健斗さん(若代)
会社員 平成24年入団

操法訓練に臨む

消防団の活動のひとつに「操法」と呼ばれるものがあります。真庭市でも2年に1度、真庭圏域消防操法訓練大会が開かれています。ここでは「操法」について説明します。

消火活動の基本的動作

操法とは、消火活動を想定した基本的な消防用機械器具の取り扱いや操作を習得するための訓練です。指揮者の号令に従い、要員たちが操作を開始。水を吸い上げるための

吸管を水利に投入し、ホースを伸ばし、火点に向かつて筒先を構えます。

いつ何時発生するか分からぬ火災現場で、混乱を防ぎ、冷静に行動するために消防団は操法訓練を行います。操法には、「ポンプ車操法」と「小型ポンプ操法」の2種類があります。



指揮者の号令で操作開始

訓練の成果を競う 操法訓練大会

操法訓練大会では、操作のタイムや正確さが競われます。来年の4月に行われる真庭圏域消防操法訓練大会に向け、市内の各方面隊が次々と訓練を開始しています。訓練は仕事が終わつた夕刻から行われることがほとんどです。団員たちは訓練を通じ、消火活動の基本を習得していきます。

ポンプ車操法

指揮者、1番員、2番員、3番員、4番員、補助員の6人で行います。火点は2つで、伸ばすホースは全部で6本。



消防ポンプ自動車を使います。

小型ポンプ操法

指揮者、1番員、2番員、3番員、補助員の5人で行います。火点は1つで、伸ばすホースは3本。



持ち運びが可能なポンプを使います。

11年ぶりに操法に挑戦することになり、厳しくも楽しい仲間たちと操法訓練をしています。送り出してくれる家族のためにも、良い成績が残せるよう練習に励みます。



美甘方面隊 第2分団
松尾 栄治さん(田口)
会社員 平成26年入団



勝山方面隊 第1分団
宮本 浩幸さん(荒田)
会社員 平成12年入団

団員たちの声

操法訓練は、仕事終わりにみんなで集まって練習しなくてはならないし、大変です。でも、自分の上達が感じられ、楽しいこともあります。消防団に入つて良かったと思っています。



団員の話

つながりができる 有意義な消防活動に

北房方面隊 第1分団
高野 隆一さん(下中津井)

平成7年入団。ラッパ隊、操法要員を経験。現在は後輩の操法を指導しています。会社員。

先輩の誘いで消防団へ

地域の先輩の誘いでもあるので、消防団に入り、20年以上が経ちました。もともと人に会うのは好きなので、まちの人たちと集まって活動することを苦に思つたことはありませんでした。けれど、当初は消防団の意義や必要性はよく理解していませんでしたね。

ラッパ隊から操法隊へ

消防団に入つてすぐの頃、先輩のラッパ隊脱退をうけ、交代でラッパ隊へ行くことになりました。式典などでラッパを吹鳴する特別な任務を持つ

**みんなで準備し
みんなで訓練する**

ポンプ車操法は6人の要員で行うのですが、要員だけでなく指導をする者、グラウンド整備をする者、ポンプ車を機庫から出してくれる者、みんな

た団員です。その後、北房方面隊に操法隊を組織することになった時に操法隊へ加わることになり、そこで指揮者を経験しました。

そうした中で、いろんな人とのつながりができ、活動が楽しくなってきました。



高野さんが所属する分団の要員の皆さん

ながいて、初めて要員たちは訓練に臨むことができます。

操法訓練を通じ チームになつていく

操法は有事の際に「いかに早く放水を始めるか」という訓練です。身に着ければ地域の役に立ちます。

大会という目標があることによって、必然的に訓練することになりますが、こうやって集まって、訓練をしていくうちに、要員も要員でない人たちもチームになり、人脈が広がっていきます。操法をするまでは話もしたことがなかつた人同士でも、操法大会を迎えるころには仲間です。

消防団に入り、操法に携わるようになつてからの日々は一言では言えないほど、いろいろなことがあります。今まで支えていただいた地域の皆さんへの恩返しと思つて、操法訓練に向き合つています。



北房方面隊 第2分団
山本 孝之さん(下皆部)
会社員 平成29年入団

いつか自分の番が来るのはないかと思っていた操法。「どうせやるなら頑張りたい」と思い前向きに挑戦しています。毎週2回の訓練は大変といえば大変つつ、取り組んでいます。



北房方面隊 第1分団
沼田 龍伍さん(下中津井)
会社員 平成22年入団

受け継いで きたもの



真庭市消防団には7つの方面隊があり、方面隊下にはさらに分団、部という組織があります。当然、地域ごとに消防団活動の特色があり、各方面隊、分団、部には、それぞれ先輩から後輩へ伝えられてきた独自の伝統や歴史があります。

久世方面隊の第1分団第1部に静かに眠る「シボレー」製の消防ポンプ車もその一つだと言えます。「シボレー」に込められた歴史と思いを取材しました。

9月から操法訓練をしていきます。覚えることも多く、なかなか大変ですが、厳しくも丁寧な指導をいただきながら、大会に向か、要員一同、一緒に頑張っていきます。



落合方面隊 第4分団
押目 健太郎さん(関)
会社員 平成14年入団

昨年に入団したばかりで、まだ分からぬことが多いです。先輩たちにホースのつなぎ方や水の出し方などを教わりながら活動しています。これからもいろいろ教えていただきながら活動していきます。



勝山方面隊 第2分団
井手 信吾さん(月田)
公務員 平成29年入団

団員たちの声

シボレー製 消防ポンプ車の歴史

昭和10年

岡山市の草信ポンプ社から購入

昭和19年11月

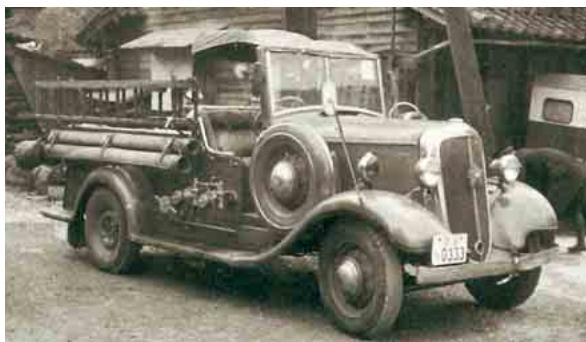
第2次世界大戦のさなか大阪市消防局へ
戦時応援出動

昭和20年10月

終戦により大阪市から返還

以降、一部改裝修理され、昭和49年まで

消防活動に出動



シボレーが保管されている消防機庫

元団員の話

思い出がつまつた 消防ポンプ車

子どもの頃から見ていた 思い出の車両

ポンプ車が導入されたのは、私が子どもの頃。きれいな車が走っているのを目にして、よく覚えています。

私が入団する頃には、新しい車が導入されていて、時が経つにつれ、シボレーの出番は減っていきました。

仲間たちとの思い出

平成元年に、仲間たちとシボレーを動かしてみようとい

う話になり、旭川で放水演技を行いました。あの頃の仲間たちとは今でもよく集まつてお酒を飲んだりしています。シボレーは私たちの思い出ですが、後輩たちにも、また新しい時代の思い出をつくりほしいですね。



平成元年9月 シボレーの放水に挑戦

20年前、20歳になる年に入団しました。近所の人が「うちの若いのも入るから入れや。」と最初は、「面倒くさい」というイメージもあって拒みましたが、操法訓練などの活動を通じ、自分の思いも前向きに変わっていました。今では、後輩の指導をする立場です。

昔は消防機庫が満員になるくらい人数がいましたが、今は少なくなってしまいました。7月豪雨の時は、出動して土嚢を積んだりもしましたが、人数がないため、なかなか手が回りません。この先のことを考えると不安もありますが、みんなで考え、前向きに頑張っていきたいです。



湯原方面隊 第3分団
渋谷 陽一さん(種)
自営業 平成10年入団

未来へ向けて

団員たちの声

消防団のバトンは、先輩から後輩へと代々受け継がれてきました。永きに渡り消防団活動をされ、ここで後進にバトンを渡す2人の副団長に話をききました。

副団長の話

地域とのつながり大切に

消防団員になつたのは44年前です。その頃は消防団活動をするのが当たり前と思つていましたし、ごく自然に消防団に入りました。地域のための活動ということもあり、いつの間にか、1つの張り合いとして取り組むようになります。

活動を続けていると、人の付き合いが増え、地域とのつながりができ、消防団といふことで、信頼もしてもらえます。大震災や豪雨といった自然の驚異に対抗できるのは、人と人との信頼関係。これからも、消防団は、地域の人たちや自主防災組織との連携を深めていくください。

永きに渡り支えていただいた地域の皆さんと家族に大変感謝しています。

した。



真庭市消防団

副団長 小野田 賢祐さん(黒田)

昭和50年入団。美甘方面隊長などを経て、平成23年から副団長に。会社員。

副団長の話

人との出会いは宝

社会に出てすぐ、「地域に恩返しをする」その思いで入団しました。消防団をやつていて良かったと思えるのは、出合った人たちのことを考える時です。団員や地域の人たちはもちろん、活動を通じ、中国5県内に知り合いができま

した。大勢の人たちと知り合いになれること。これは宝ですね。

私たち2人はここで団を退きますが、若い人たちには、どんどん活動し、仲間づくりをしていてほしいと思っています。そのことが、この先地域を守ることにつながります。

今後も、現場などで二次災害にあわないよう、皆さんで力を合わせ消防団活動を続けていってください。



真庭市消防団
副団長 中島 秀典さん(月田)
昭和51年入団。勝山方面隊長などを経て平成25年から副団長。会社員。

田舎に住みたくて、12年前に東京から移住してきました。ご縁があつて4年ほど住んでいた津田の皆さんに仲良くしていただき、一緒に消防団活動をしています。操法は初めてです。



落合方面隊 第2分団
河村 雄大さん(久世)
団体職員 平成21年入団

地元の美甘で消防団活動をしています。地元には子どもの頃から自分のことを知つてくれている人たちがいるので、良くしてもらっています。まだまだ操作には慣れませんが、やるからには頑張ります。



美甘方面隊 第2分団
松尾 大樹さん(久世)
会社員 平成26年入団

このまちを 守り続ける



久世方面隊 放水訓練大会



北房方面隊 女性消防団員による啓発活動



普通救命講習



湯原方面隊 防火パレード



班長以上訓練会



分身



落合方面隊 女性消防団員による火災予防啓発活動